
ライダーメモリ大実践会特別番外編 魔弾戦士トリロジー

川口高史

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ライダーメモリ大実践会特別番外編 魔弾戦士トリロジー

【Nコード】

N9998P

【作者名】

川口高史

【あらすじ】

作者が生み出したオリジナルの魔弾戦士を、実戦を通して披露しよう、という作品です。

Episode Blue 剣士の兄は青き槍士

作者

「さあ、ついに始まったぜ魔弾戦士トリロジー！」

剣汰

「まずは、青の魔弾戦士だな。」

作者

「では、変身者、カモン！」

雷斗

「ようやく出番だな。」

剣汰

「…サブタイでわかった奴、いくらかいるだろうな。」

作者

「つか、読まれてるかどうかわからんし。」

剣汰

「いや最低でも二人はいるだろ。」

雷斗

「…とりあえず、変身していいか？」

作者

「どうぞどうぞ。」

雷斗

「よし…いくぞ！」

ショウリュウソウ！」

雷斗の右手首に装備されていたブレスレットが光り、ゴッドゲキリ
ユウケンの柄が長く伸びた姿をした鎗型の魔弾龍、「ショウリュウ
ソウ」になった。

雷斗

「リュウソウキー、発動！」

ショウリュウソウ

「チェンジ、リュウソウオー！」

雷斗

「昇竜変身！」

雷斗は、リュウケンドーと同じ白と青の魔弾戦士、リュウソウオー
に変身した。

リュウソウオー

「昇竜の、青き魔弾鎗士…リュウソウオー！ライジン！」

剣汰

「…で、雷斗の相手は？」

作者

「お前に決まってんじゃん。」

剣汰

「…だろうと思った…」

ゴッドゲキリュウケン！ゴッドリュウケンキー、発動！」

ゴッドゲキリュウケン

「チェンジ、ゴッドリュウケンドー！」

剣汰

「撃龍変身！」

剣汰は、お馴染みのゴッドリュウケンドーに変身した。

ゴッドリュウケンドー

「撃龍の青き、白銀の魔弾剣士…ゴッドリュウケンドー！ライジン
！！」

リュウソウオー

「さあ…いくぞ！剣汰！！」

ゴッドリュウケンドー

「…望むところだ。」

リュウソウオー？ゴッドリュウケンドー

「…はあああああああつ！！」

ショウリュウソウとゴッドゲキリュウケンがぶつかり合い、火花を
散らす。

リュウソウオーは巧みな槍捌きでゴッドリュウケンドーを攻めるが、
ゴッドリュウケンドーもゴッドゲキリュウケンと盾でそれを防ぎ、
隙を見て斬りかかる。

しかしリュウソウオーはそれを避け、ショウリュウソウで突きを繰
り出す。

ゴッドリュウケンドーはそれを間一髪で避け、リュウソウオーから
距離を取った。

ゴッドリュウケンドー

「魔弾斬り！」

そして、ファイナルキー無しで魔弾斬りを放った。

作者

「説明しよう、剣汰は長年ゴッドリュウケンドーとして戦いつつ
けた結果、ファイナルキー無しでも魔弾斬りや龍王魔弾斬りを撃てる
ようになったのだ。」

もちろん、ファイナルキー有りの時より、威力は結構下がってるが。」

リュウソウオー

「くっ！」

リュウソウオーは、何とか魔弾斬りを斬り払った。

リュウソウオー

「やはり、剣汰は強いな…わかりきったことだが。」

シヨウリュウソウ

「雷斗、モードチェンジだ！」

リュウソウオー

「ああ！まずは…ライジングキー、発動！」

シヨウリュウソウ

「チェンジ、ライジングリュウソウオー！」

リュウソウオー

「電撃武装！」

リュウソウオーを電気が包み、ライジングリュウソウオーに変身した。

ライジングリュウソウオー

「ライジングリュウソウオー！ライジンー！」

ゴッドリュウケンドー

「なら…ブリザードキー、発動！」

ゴッドゲキリュウケン

「チェンジ、ブリザードリュウケンドー！」

ゴッドリュウケンドー

「超氷結武装！」

ゴッドリュウケンドーを冷気が包み、ブリザードリュウケンドーに変身した。

ブリザードリュウケンドー

「ブリザードリュウケンドー、ライジン!!」

ライジングリュウソウオー

「って、何で弱点属性なんだよ!」

ブリザードリュウケンドー

「…ハンデだ。」

ライジングリュウソウオー

「おかしいだろ!!」

普通俺に付くものだろそれ!!

ホントこういう時に限ってボケるなお前は!!」

ブリザードリュウケンドー

「…知るか。いくぞ。」

ライジングリュウソウオー

「知れえええええええ!!」

電撃をまとったショウリュウソウと、冷気をまとったゴッドゲキリュウケンがぶつかり合う。

ライジングリュウソウオー

「くっ…やはり…弱点はきついな…」

ブリザードリュウケンドー

「だろうな。」

それくらい腕で補ってみろ。」

ライジングリュウソウオー

「言われずとも!」

はあああああああっ!!」

ライジングリユウソウオーはブリザードリユウケンドーを押し飛ばし、ショウリユウソウから電撃を放つ。

ブリザードリユウケンドー

「くっ…！」

ブリザードリユウケンドーは何とかしのぎ、ゴッドゲキリユウケンから冷気を放つ。

ライジングリユウソウオー

「寒っ！？」

ブリザードリユウケンドー

「もらった…！」

ライジングリユウソウオー

「させるかっ…！」

ブリザードリユウケンドーはゴッドゲキリユウケンを振り下ろすが、ライジングリユウソウオーは何とか受け止め、受け流し、距離を取った。

ライジングリユウソウオー

「ファイナルキー、発動！」

ショウリユウソウ

「ファイナルクラッシュ！」

ブリザードリユウケンドー

「ファイナルキー、発動！」

ゴッドゲキリユウケン

「ファイナルクラッシュ！」

ライジングリユウソウオー

「ショウリユウソウ、電撃突き!!」

ブリザードリユウケンドー

「ゴッドゲキリユウケン、爆氷斬り!!」

両者の必殺技が衝突し、爆発した。

ライジングリユウソウオー?ブリザードリユウケンドー

「くっ...!?」

ブリザードリユウケンドー

「...互角か...」

ライジングリユウソウオー

「なら...フリーズキー、発動!」

ショウリユウソウ

「チェンジ、フリーズリユウソウオー!」

ライジングリユウソウオー

「冷凍武装!」

ライジングリユウソウオーを冷気が包み、フリーズリユウソウオーに変身した。

フリーズリユウソウオー

「フリーズリユウソウオー、ライジン!!」

ブリザードリユウケンドー

「...バーニングキー、発動!」

ゴッドゲキリユウケン

「チェンジ、バーニングリユウケンドー!」

ブリザードリユウケンドー

「超火炎武装!」

ブリザードリユウケンドーを炎が包み、バーニングリユウケンドー

に変身した。

バーニングリュウケンドー

「バーニングリュウケンドー、ライジン!!」

フリーズリュウソウオー

「やっぱりか!!」

明らかに不利だる俺!!」

バーニングリュウケンドー

「しょうがないだろ、お前勝手に回ってるんだから。

しかも、作者が何か考えてのことらしいし。」

フリーズリュウソウオー

「…まあいい、やるしかないか!」

フリーズリュウソウオーは冷気をまとったショウリュウソウで攻撃し、バーニングリュウケンドーはそれを避けて、炎をまとったゴッドゲキリュウケンで斬りかかる。

フリーズリュウソウオーはそれを受け流し、バーニングリュウケンドーを斬りつけた。

バーニングリュウケンドーの斬られた場所が一瞬凍ったが、すぐに溶けた。

フリーズリュウソウオー

「ようやく当たったな…!」

バーニングリュウケンドー

「…流石にやるな…」

火炎斬り!!」

フリーズリュウソウオー

「なっ…!!?」

うわあああああっ!!」

バーニングリュウケンドーが不意打ちで火炎斬りを放ち、フリーズリュウソウオーはそれを食らってしまう。

フリーズリュウソウオー

「くっ…油断したか…は見せかけだ!」

フリーズリュウソウオーはすかさず突きを繰り出し、バーニングリュウケンドーに命中した。

バーニングリュウケンドー

「ぐっ…!?!」

突かれた場所から広範囲が凍ったが、やはりすぐに溶けた。

フリーズリュウソウオー

「残るモードは一つ…いや、待てよ…」

…そうか!作者の考えは、これのことか!」

バーニングリュウケンドー

「何…!?!」

フリーズリュウソウオー

「フレイムキー、発動!」

ショウリュウソウ

「チェンジ、フレイムリュウソウオー!」

フリーズリュウソウオー

「灼熱武装!」

フリーズリュウソウオーを炎が包み、フレイムリュウソウオーに変身した。

フレイムリュウソウオー

「フレイムリュウソウオー、ライジン!!」

バーニングリュウケンドー

「まさか、作者の考えってのは…」

フレイムリュウソウオー

「俺は炎使いだから、このフレイムが最強モードなんだ!

そしてこれが、最強モードの証だ!

フェニックスキー、召喚!」

ショウリュウソウ

「フレイムフェニックス!」

フレイムリュウソウオー

「いでよ、フレイムフェニックス!」

フレイムリュウソウオーは、炎の不死鳥の獣王、フレイムフェニックスを召喚した。

そして、フレイムフェニックスは変形し、フレイムリュウソウオーの背中に合体した。

FWリュウソウオー

「フレイムウィングリュウソウオー、ライジン!!」

バーニングリュウケンドー

「なるほど…最終的に最強モード同士がぶつかるようにしてたのか…

なら…!ライトニングキー、発動!」

ゴッドゲキリュウケン

「チェンジ、ライトニングリュウケンドー!」

バーニングリュウケンドー

「超雷電武装!」

バーニングリュウケンドーを雷が包み、ライトニングリュウケンドー

ーに変身した。

ライトニングリュウケンドー

「ライトニングリュウケンドー、ライジン!!」

ライトニングイーグルキー、召喚!!」

ゴッドゲキリュウケン

「ライトニングイーグル!!」

ライトニングリュウケンドー

「いでよ、ライトニングイーグル!!」

ライトニングリュウケンドーは、雷の鷹の獣王、ライトニングイーグルを召喚した。

そして、ライトニングイーグルは変形し、ライトニングリュウケンドーの背中に合体した。

RWリュウケンドー

「ライトニングウィングリュウケンドー、ライジン!!」

そして、炎と雷の空中戦が始まった。

FWリュウソウオー? RWリュウケンドー

「はああああああつ!!」

炎をまとったショウリュウソウと、雷をまとったゴッドゲキリュウケンが、空中でぶつかり合う。

FWリュウソウオー

「やはり、慣れてるな…剣汰…!!」

RWリュウケンドー

「当然だ…俺はこれで、ゆりかごを墜としたんだからな…!!」

FWリュウソウオー

「…だが、俺は負けない…！」

RWリュウケンドー

「だろうな…それでこそ俺の兄だ…！」

二人は距離を取り、それぞれのファイナルキーを取り出す。

FWリュウソウオー？ RWリュウケンドー

「ファイナルキー、発動…！」

ショウリュウソウ？ ゴツドゲキリュウケン

「ファイナルクラッシュ…！」

FWリュウソウオー

「魔弾龍、獣王、槍士…！」

RWリュウケンドー

「魔弾龍、獣王、剣士…！」

FWリュウソウオー？ RWリュウケンドー

「…三つの力が今一つになる…三位一体…！」

FWリュウソウオー

「ショウリュウソウ！灼熱突き…！」

RWリュウケンドー

「ゴツドゲキリュウケン！爆雷斬り…！」

両者の最強必殺技が、空中で衝突、大爆発した。

リュウソウオー

「うわああああああつ…！」

ゴツドリュウケンドー

「ぐっ…！？」

両者ともモードチェンジが解け、墜落し、変身が解けた。

作者

「おーい、大丈夫かー？」

雷斗

「…ああ…なんとか…」

剣汰

「無事だ…」

作者

「よし、二人ともお疲れさん。」

雷斗

「お前とここまで本気でぶつかり合ったの、いつぶりだろうな。」

剣汰

「…さあな。」

だが…いい闘いだった。」

雷斗

「ああ、そうだな！」

作者

「では、Episode Blueはここまで！」

Episode Redもお楽しみに！！」

剣汰？雷斗

「「死ぬ気で見ろよ。」」

Episode Blue 剣士の兄は青き槍士（後書き）

補足

リュウソウオーの獣王

ストライクタイガー

虎の獣王。

リュウケンドーのブレイブレオン同様、誇り高い性格。

変形してタイガートライクとなり、「三位一体魔弾突き」で、リュウソウオーと共に敵に突貫する。

ライジングコング

ゴリラの獣王。

リュウケンドーのファイヤーコングにそっくりな姿をしている。

ライジングキャノンに変形し、雷の砲撃を放つ。

フリーズホエール

クジラの獣王。

大きな口から冷凍水流を放つことができる。

フリーズボードに変形し、フリーズリュウソウオーを乗せて低空飛行する。

フレイムフェニックス

不死鳥の獣王。

翼を羽ばたかせることで、火の雨を降らし、攻撃する。

フレイムリュウソウオーと合体してフレイムウイングリュウソウオーとなり、ライティングウイングリュウケンドーに並ぶ戦闘能力を

発揮する。

Episode Red 幻影の赤き双剣士

作者

「トリロジー第二弾!!」

高史

「今度は赤の魔弾戦士だ!!」

作者

「では早速、変身者、カモン!」

浩司

「よろしくお願いします。」

高史

「多分流れからしてわかってただろうな、読者。」

作者

「言っな。」

「じゃ浩司、よろ。」

浩司

「はい…行きます!」

「ゲンリユウトウ!」

浩司の左腰が光り、刀型の魔弾龍、ゲンリユウトウが現れた。

浩司

「リユウトウキー、発動!」

ゲンリユウトウ

「チェンジ、リユウトウオー!」

浩司

「幻龍変身！」

浩司は、白と赤の魔弾戦士、リュウトウオーに変身した。

リュウトウオー

「幻龍の、赤き魔弾双剣士…リュウトウオー！ライジン…！」

高史

「若干剣汰兄ちゃんと被ってね？」

作者

「だから双を付けた。」

高史

「で、浩司兄ちゃんの相手は。」

作者

「お前に決まってるだろ。」

高史

「ですよー！」

ゴウリュウガン！マグナリュウガンキー、発動！」

ゴウリュウガン

「チェンジ、マグナリュウガンオー！」

高史

「剛龍変身！」

高史は、こちらもおなじみのマグナリュウガンオーに変身した。

マグナリュウガンオー

「剛龍の赤き、黄金の魔弾銃士…マグナリュウガンオー！ライジン…！」

リュウトウオー

「さて…行こうか、高史。」

マグナリユウガンオー

「望むところ！」

マグナリユウガンオーは、マダンマグナムをソードモードにして、リユウトウオーに向かっていった。

対するリユウトウオーも、ゲンリユウトウを構える。

リユウトウオー

「はあああああっ！」

マグナリユウガンオー

「でりゃあああああああああー！」

ゲンリユウトウとマダンマグナムがぶつかり合う。

マグナリユウガンオーは隙についてゴウリユウガンでリユウトウオーを撃つが、リユウトウオーはそれをさけてマグナリユウガンオーに斬りかかる。

マグナリユウガンオー

「おらっ！」

リユウトウオー

「くっ…！」

雷斗もそうだったけど、何で僕たちの方が不利になるんですか！

？

作者

「そこは腕で補ってこそだろう。」

リユウトウオー

「雷斗ならまだしも、僕刀は使い慣れてないんですよまだ！

それに高史のほうがずっと強いし！」

マグナリユウガンオー

「喋つとると当たるぞー」

その言葉通り、マグナリユウガンオーの銃撃がリュウトウオーに命中した。

リュウトウオー

「ぐっ…!？」

マグナリユウガンオー

「はあああああああつ！」

すかさずマグナリユウガンオーはリュウトウオーにドロップキックを決め、吹っ飛ばした。

リュウトウオー

「うわああああああつ！」

マグナリユウガンオー

「ほーら、言わんこっちゃねえ。」

リュウトウオー

「お前なあ…！」

ファイナルキー、発動！」

ゲンリユウトウ

「ファイナルクラッシュ！」

マグナリユウガンオー

「ならこつちも…ファイナルキー、発動！」

ゴウリユウガン

「ファイナルブレイク！」

ゲンリユウトウに魔力が集中していき、リュウトウオーはゲンリユウトウを左脇に構えた。

一方のマグナリユウガンオーは、ゴウリユウガンを左手で持ち、一直線にリュウトウオーに狙いを定めた。

作者

「説明しよう、高史は左手で銃を持つと、何故かより大きな反動に耐えられるため、片手でドラゴンキャノン撃つことができるのだ。」

リュウトウオー

「…ゲンリュウトウ、幻龍一閃！」

マグナリュウガンオー

「必中、必殺！ドラゴンキャノン、ファイア！！」

リュウトウオーは大きく踏み込むと共にゲンリュウトウを右斜め上へ斬り上げ、龍の姿をした斬撃魔法を放った。

マグナリュウガンオーはゴウリュウガンから、龍の姿をした砲撃魔法を放った。

二体の龍は正面衝突し、互いに押し合う。

しかし、斬撃の龍が砲撃の龍を貫き、マグナリュウガンオーに命中した。

マグナリュウガンオー

「流石にですよねギヤアアアアアアアアアアアアアアアア！」

リュウトウオー

「…ブレイクでクラッシュに勝てると思ったのか…？」

マグナリュウガンオー

「…思ってたかったらやっとなん。」

「それでも威力上がってたんだぞ…」

リュウトウオー

「残念だったな。」

「僕もそんなに甘くない。」

マグナリュウガンオー

「ですよー…」

ゴウリュウガン

「ドラゴンショット！」

リュウトウオー

「なっ！？うわああああっ！？」

マグナリュウガンオーはいつの間にかショットキーを発動しており、ドラゴンショットでリュウトウオーを撃った。

そしてすぐさま起き上がり、銃撃と剣撃のコンビネーションでリュウトウオーを攻撃した。

リュウトウオー

「くっ…」

マグナリュウガンオー

「不意打ち成功」

そろそろ決めるか。

マグナゴウリュウガン！」

ゴウリュウガン

「マグナパワー！」

マグナリュウガンオーはゴウリュウガンとマダンマグナムを合体させ、マグナゴウリュウガンにした。

マグナリュウガンオー

「ファイナルキー、発動！」

マグナゴウリュウガン

「ファイナルクラッシュ！」

マグナリュウガンオー

「必中、必殺：マグナドラゴンキャノン！ファイア！！」

先程よりも強力な砲撃魔法が、リュウトウオーを吹き飛ばした。

リュウトウオー

「うわああああああああ！！？」

爆発の煙が晴れると、そこには何も残っていなかった。

マグナリュウガンオー

「あれ？やっちゃった？」

リュウトウオー

「んなわけあるか。」

突然、マグナリュウガンオーは背後から斬られた。

マグナリュウガンオー

「ぐばっ！？」

背後からつてあり！？」

そう言つて後ろを振り返ると、そこには誰もいなかった。

マグナリュウガンオー

「え！？どういうこと！？」

リュウトウオー

「それくらい当ててみる。」

何もないところからリュウトウオーの声がして、今度は正面から斬られた。

マグナリュウガンオー

「ぐあああっ!？」

そ、そこにいるの!？」

リュウトウオー

「まあ、そういうことになる。」

すると、マグナリュウガンオーの目の前から、リュウトウオーがうつすらと、そしてだんだんはつきりと姿を表した。

マグナリュウガンオー

「どうということ!？」

リュウトウオー

「お前がさっきまで相手をしていたのは、凝縮することで限りなく実体に近づけた幻影だ。」

お前が幻龍一閃を喰らった隙に、このキーを発動して入れ替わり、代わりに本体である僕は姿を消した、というわけさ。」

そう言つて、リュウトウオーは一本の魔弾キーを見せる。

リュウトウオー

「これはミラージューキー。」

幻影を自由自在に創り、操ることができる。

また、自分の姿を見えなくすることもできるし、様々な幻術を相手にかけることもできる。

幻龍の名の由来であり、最大の特徴の一つさ。」

〈回想〉

マグナリュウガンオー

「流石にですよねギヤアアアアアアアアアアアア!！」

リュウトウオー

「今だ…！ミラージュキー、発動！」

ゲンリュウトウ

「ドラゴンミラージュ！」

リュウトウオーが二人に分身し、片方のリュウトウオーは一瞬で消えた。

リュウトウオー（幻影）

「…ブレイクでクラッシュに勝てると思ったのか…？」

（回想終了）

リュウトウオー

「そしてもう一つが…これだ。」

そう言つて、リュウトウオーはもう一本の魔弾キーを取り出す。

リュウトウオー

「デュアルソードキー、発動！」

ゲンリュウトウ

「デュアルパワー！」

リュウトウオーはゲンリュウトウを垂直に構え、左に平行移動させ、その直後に右へ平行移動させた。

すると、リュウトウオーの目の前を過ぎた瞬間、リュウトウオーの目の前にもう一本のゲンリュウトウが出現した。

そして、リュウトウオーはそのゲンリュウトウを取り、モンハンの双剣の構えをとった。

リュウトウオー

「これが僕の…リュウトウオーの本当の力！

デュアルソードゲンリュウトウ！！」

マグナリュウガンオー

「双剣来ちゃったああああああああああ！！」

作者

「説明しよう、浩司は元来双剣使いで、双剣を使つと、剣汰や雷斗に及べるほど強くなるのだ！」

リュウトウオー

「勝利フラグ、つてやつかな。」

リュウトウオーは、デュアルソードゲンリュウトウを振りかざし、マグナリュウガンオーに向かっていった。

対するマグナリュウガンオーは、マグナゴウリュウガンを分離させ、ダブルソードモードにして対抗する。

しかし、剣汰や雷斗にまで及べるリュウトウオーの双剣術にかなうはずもなく、あつと言う間に押されていった。

リュウトウオー

「はあっ！」

マグナリュウガンオー

「ギャー！」

リュウトウオーに×字に斬られ、あえなく吹っ飛ぶマグナリュウガンオー。

すると、リュウトウオーは左のゲンリュウトウを垂直に真上へ投げた。

リュウトウオー

「ファイナルキー、発動！」

ゲンリュウトウ

「ファイナルクラッシュ！」

リュウトウオー

「デュアルソードゲンリュウトウ…双龍演舞！！」

リュウトウオーが落ちてきたゲンリュウトウをキャッチすると、リュウジンオーの乱撃よりも速い連撃が、マグナリュウガンオーに炸裂した。

マグナリュウガンオー

「ぐああああああああっ！！」

リュウトウオーを必殺技を喰らい、マグナリュウガンオーはあえなく倒れ、変身が解けた。

リュウトウオー

「…終演。」

作者

「はい、お疲れー」

（リュウトウオー、変身解除。）

浩司

「ありがとうございました。」

作者

「高史ー、生きてるー？」

高史

「…ギリギリ。」

作者

「そりゃ良かった。」

高史

「…浩司兄ちゃんに負けたの、初めてかも。」

浩司

「それ以前に、お前と本気で闘ったこと自体無いから。」

高史

「そういえば。」

作者

「では、Episode Redはここまで！ Episode Blackもお楽しみに！！」

高史？浩司

「…死ぬ気で見ろよ。」

Episode Red 幻影の赤き双剣士（後書き）

補足

リュウトウオーの獣王

セイバーユニコーン

一角馬の獣王。

頭部の角が剣になっており、突進して敵を斬る。

ユニコーンスライダーに変形し、ゴッドリュウケンドーのブリザードボードやリュウソウオーのフリーズボードと同様にリュウトウオーを乗せて「三位一体双龍演舞」を繰り出す。

また、変形することなくリュウトウオーを背中に乗せると「三位一体幻龍一閃」を繰り出すことが可能。

Episode Black 流星降らす黒き術士

作者

「トリロジー第三弾！

これでラストだ！！」

春花

「最後は、黒の魔弾戦士だよ！」

作者

「では早速、変身者、カモン！」

春日

「いっくよー！」

春花

「みんなはもうわかってたよねー」

作者

「んじゃ春日、よろ。」

春日

「オッケー！」

セイリュウジョウ！」

春日の右手首のブレスレットが光り、杖型の魔弾龍、セイリュウジョウになった。

春日

「リュウジョウキー、発動！」

セイリュウジョウ

「チェンジ、リュウジョウオー。」

春日

「聖龍変身！」

春日は、リュウジンオーと同じ黒の魔弾戦士、リュウジョウオーに変身した。

リュウジョウオー

「聖龍の、黒き魔弾術士…リュウジョウオー！ライジン…！」

春花

「それじゃ、私たちも行こうか、ザンリュウジン。」

ザンリュウジン

「おうよ！」

派手に行くぜ…！」

春花

「ザンリュウジン！リュウジンキー、発動！」

ザンリュウジン

「チェンジ、リュウジンオー。」

春花

「斬龍変身！」

春花は、これもおなじみ、リュウジンオーに変身した。

リュウジンオー

「斬龍の、黒き魔弾闘士…リュウジンオー！ライジン…！」

リュウジョウオー

「それじゃあ行くよ、春花！」

リュウジンオー

「本気で行くからね、春日！」

リュウジョウオー

「行くよセイリュウジョウ！ハルバードモード！」

セイリュウジョウの裏側に折り畳まれていた短刀が飛び出し、セイリュウジョウはハルバードモードとなった。

対するリュウジンオーも、ザンリュウジン アックスモードを構える。

リュウジンオー？リュウジョウオー

「「やああああああああああつ！！」」

セイリュウジョウとザンリュウジンがぶつかり合う。

リュウジンオーはザンリュウジンの両端の斧で斬りかかり、リュウジョウオーはセイリュウジョウの柄でそれを防ぎ、隙をみて斬りかかる。

リュウジョウオー

「くっ…攻撃できる箇所はザンリュウジンの方が多いから…少しキツイ…！」

リュウジンオー

「まだまだ行くよ！」

リュウジンオーは攻撃の手を緩めず、ザンリュウジンを次々と振るう。

対するリュウジョウオーも、全てセイリュウジョウで防御する。

リュウジンオー

「守ってるだけじゃ、勝てないよ！」

リュウジョウオー

「そんなこと言われても…っ！？」

ザンリュウジンが振り降ろされ、セイリュウジョウに防がれる。
しかし、ザンリュウジンの斧はリュウジョウオーの顔ギリギリの
ころまで迫っていた。

リュウジョウオー

「やっぱり強いよ、春花は…」

でも…私も、負けられない!!」

リュウジョウオーはザンリュウジンを押し飛ばし、斬りつけた。

リュウジンオー

「きやあっ!？」

喰らっちゃったか!…でも、まだまだ!

アーチェリーモード!」

リュウジンオーは、ザンリュウジンアーチェリーモードに変形さ
せ、魔力矢を放った。

リュウジョウオーはセイリュウジョウで斬り落とすが、リュウジン
オーは次々と矢を放つ。

リュウジョウオー

「キリがない!…なら!

フィールドキー、発動!」

セイリュウジョウ

「セイントフィールド。」

リュウジョウオー

「セイントフィールド、展開!」

リュウジョウオーがセイリュウジョウで地面を突くと、リュウジョウ

ウォーの足元に魔法陣が現れ、その周囲から光の壁が伸びた。

リュウジンオー

「まさか…バリア…!？」

なら、破る…!」

リュウジンオーは再び矢を放つ。

リュウジョウオー

「セイントフィールド!リフレクト!」

リュウジョウオーがそう言つと、光の壁に直撃した矢は、瞬時に逆方向を向いて飛んでいった。
それはすなわち…

リュウジンオー

「きゃあっ!?!」

リュウジンオーのいる方向だった。

リュウジンオーはギリギリでそれを避け、リュウジョウオーを見る。

リュウジンオー

「まさか跳ね返すなんて…!」

リュウジョウオー

「今だ…!」

シューターキー、発動!」

セイリュウジョウ

「ドラゴンシューター。」

リュウジョウオーの周囲に、黒い魔力弾が数個出現した。

リュウジンオー

「あれって…まさか…!？」

リュウジョウオー

「ドラゴン…シューター!!」

リュウジョウオーがリュウジンオーに向けてセイリュウジョウを振ると、魔力弾は一斉にリュウジンオーに向かっていった。

リュウジンオー

「やっぱり…！」

なのはちゃんと同じタイプの射撃魔法…！」

リュウジンオーはすかさずザンリュウジンをアックスモードに変形させ、魔力弾を全て斬り落とした。

リュウジョウオー

「やっぱり、一筋縄じゃ行かないね…！」

リュウジンオー

「こうなったら…一気に決める！」

ファイナルキー、発動！」

ザンリュウジン

「ファイナルクラッシュ！」

リュウジンオー

「ザンリュウジン…乱撃!!」

すさまじい連撃が、リュウジョウオーに襲いかかる。

リュウジョウオー

「セイントフィールド！ブロック！フルドライブ!!」

リュウジヨウオーは、セイントフィールドの強度を限界まで高めて
対抗する。

そして、ザンリュウジン乱撃が、セイントフィールドに衝突した。
その時、ガラスが砕け散るような音がその場に響いた。

リュウジンオー

「これなら…！」

しかし、セイントフィールドは破られたものの、乱撃はリュウジヨ
ウオーには届いていなかった。

リュウジヨウオー

「ふう…間一髪。」

リュウジンオー

「そんな…！？」

リュウジヨウオー

「今度は私の番！

バインドキー、発動！」

セイリュウジヨウ

「ドラゴンバインド。」

リュウジヨウオーがセイリュウジヨウで地面を突くと、リュウジン
オーの足下に魔法陣が現れ、そこから二体の黒い光の龍が現れ、リ
ュウジンオーに巻き付き、拘束した。

リュウジンオー

「しまった…っ！」

リュウジヨウオー

「これで確実に当てられる…！」

ファイナルキー、発動！」

セイリュウジョウ

「ファイナルクラッシュ。」

リュウジョウオーがセイリュウジョウを掲げると、セイリュウジョウから炎のような魔力光が溢れ、セイリュウジョウを二回振り回して再び高くあげると、その魔力光はリュウジョウオーの上空に飛翔し、龍の姿をした魔力弾になった。

リュウジョウオー

「墜ちろ……！龍星弾……！」

リュウジョウオーがセイリュウジョウを振り降ろすと、龍型の魔力弾は吠えながらリュウジンオーに突っ込んだ。

リュウジンオー

「きゃあああああああ……！」

煙が晴れると、そこには変身が解けた春花が倒れていた。

リュウジョウオー

「春花！大丈夫！？」

春花

「うん、何とか……」

リュウジョウオー

「待って……！」

ヒーリングキー、発動！」

セイリュウジョウ

「ヒーリング。」

リュウジヨウオーが春花にセイリュウジヨウをかざすと、セイリュウジヨウから光が春花に降り注ぎ、春花のダメージが治った。

リュウジヨウオー

「これでよし！」

春花

「ありがとう、春日。」

リュウジヨウオー

「どういたしまして」

作者

「はい、お疲れー」

春日（変身解いた）

「お疲れ様でしたー！」

春花

「春日、強かったね！」

春日

「えっへん！」

作者

「さてと、これでトリロジーはコンプリートだ！」

春日

「作者オリジナル側の全勝だね！」

春花

「いや、剣汰と雷斗は引き分けたよ。」

春日

「あ、そうだったね。」

作者

「とにかく、魔弾戦士トリロジーはこれにて終了です！
ありがとうございました！」

春花？春日

「ありがとうございます！」「

Episode Black 流星降らす黒き術士（後書き）

補足

本文では披露しなかったが、リュウジョウオーには「龍星斬」という、龍星弾をそのままセイリュウジョウ ハルバードモードに纏わせて敵を斬る、もう一つの必殺技がある。

リュウジョウオーの獣王

セイントレイダー

蝙蝠の獣王。

ナイトサバイブのダークレイダーに酷似しているが、色は黒。

リュウジョウオーと合体してセイントウイングリュウジョウオーとなり、自らに龍星弾を纏って敵に突貫する「三位一体龍星斬」を繰り出す。

また、セイントバイクにも変形し、同様に龍星弾を纏って突貫する「三位一体龍星弾」を繰り出す。

予告！！

作者

「さて、懲りずにまた番外編やります。」

剣汰？高史

「はああああああああ！？」

ライダーメモリ大実践会特別番外編、第二弾！
その名も…

ウルトラマン×ウルトラマンブレード&ソード 小説大戦
ELEVEN

番外編第二弾は…ウルトラマン！

過去や雑談劇場で名前のみ出ていた、あのウルトラマンブレードが、
ついに登場！！

また、他作者作品への出演まで果たしたウルトラマンソードも、新
フォームを引っさげ参戦！

高史

「さて、投稿はいつになることやら…」

剣汰

「また長く待たせるんだろうな…」

作者

「気にしない。」

剣汰？高史

「しろよ！！」「」

乞うご期待!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9998p/>

ライダーメモリ大実践会特別番外編 魔弾戦士トリロジー

2011年1月11日20時39分発行